

今日も「ー」あがり

第47話

国境を越える技術を磨け！ の巻



皆さん、こんにちは！ ニューヨーク5番街にそびえ立つトランプタワーからほど近い病院で産声を上げたロボストス高垣でございます。

さて、この雑誌が皆さんの手元に届く頃は米国大統領選挙直前でしょうか？ 日本から見ていると驚きと疑問ばかりで、一年ほど前から毎朝のニュース検索が僕の日課になっています。年始は米国経済が絶好調でトランプ再選確実と言われていましたが、新型コロナウイルスのパンデミックで経済が止まり形勢は逆転。感染拡大に歯止めがかからないなかで、白人警官の黒人男性殺害事件を機に人種差別問題に対する不満が爆発。米中対立の先鋭化、親族や元側近によるトランプ暴露本の嵐、米国史上最悪の山火事、アラブ諸国間の歴史的な国交樹立、最高裁判事の強行指名、納税問題、と毎日ビッグニュースの連続なんです。本当に目が離せません。2016年の選挙で

は、グローバル化とオートメーション化の影響により製造業の雇用が失われた地域の投票が勝敗を分けたと言われています。ということで、今月は米国製造業に関する案件をご紹介します。

「米国 LYON technology 社が廃業してデビーカー（電気加温式切嘴器）の切断刃が入手できなくなった。刃物工業が盛んな新潟県三条市で製作を試みたが失敗した」という養鶏業界からのご相談です。日本の養鶏現

刃の曲がりを抑える技術

場では、鶏同士が嘴でつついて傷付け合うことを防ぐために、ひなの段階で嘴を切断するんですね。一日に何千羽も処理するとデビーカーの刃が歪曲してしまうので、消耗部品として交換するのですが、刃の在庫が尽きそうに焦っているとのこと。



写真1：LYON technology社のデビーカー（電気加温式切嘴器）

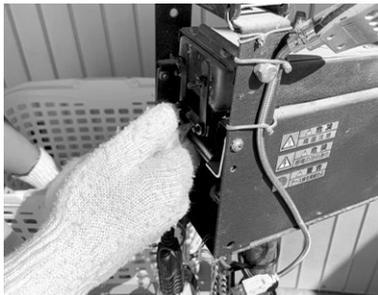


写真2：作業員の手で鶏のひなは嘴を切除する。ううう、ちょっと僕は直視できない……



写真3：何千羽の嘴を切断していくと、刃が曲がってしまう。消耗部品として交換して使っているようだ



写真4：完全なる代替品を作ることができた。実は僕はこの案件に主体的に関与したわけではない。チームの力で解決したこと、それが嬉しかった！



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス代表取締役社長。

無事に純正品と違わぬ刃を製作できました。さらに「純正品より切れ味が良い」と現場の担当者から高く評価していただき、完勝ですね（笑）。マニアックな強度の高め方を学ぶ機会をいただき、時空を超えて米国と技術交流できたような、嬉しく夢を見たような感覚になりました。

社外秘で詳細は公表できませんが、材質を特定して試みに作ってみました。ころ、やはりすぐに曲がってしまいました。LYON technology社は間違いないかと手間加えていて、調べに調べた結果、ある加工を施すことで刃の曲がりを抑えることに成功！！

地域や人種の違いにより社会の分断が叫ばれる米国の実情が気になる、何冊か本を読みました。ラストベルトと呼ばれるかつて製造業が栄え衰退した地域に住み、地元住民と酒を酌み交わし、普通のアメリカ人のリアルな声が丁寧に取材された『ルポ・トランプ王国』（著・金成隆一）は読み応えがありました！！僕も負けじと現場主義を貫き、社会の変化を肌で感じながら、世界に通用する技術を磨いてまいります。ということで、今月も一丁あがり！！